

字音接頭辞「各」について

張 明

論文要旨

本稿は字音接頭辞「各」がどのような後接語と結合するか、どのような意味用法を表すかについて、コーパスから収集したデータに基づき、考察するものである。まず「各」は、文字数が多い複合名詞や、語レベルを超えるものとの結合が多いことが特徴である。また、後接語を意味分野で分類すると、各中項目分野に広く分布していることがわかり、「各」の生産性は強い。次に、「各」を使わなくてもよい用例について検討し、重複表現の種類ではないかと述べる。また、「各」の基本的意味は「それぞれ(の)」であるが、文脈によっては、語用論的に意味の差が出てくる場合がある。本稿では、それを全体型と個別型と名付け考察する。さらに、照応表現として機能する「各」があることも詳しく分析する。最後に、「各」と「毎」の違いを明らかにする。

キーワード【字音接頭辞、「各」、後接語、意味用法、照応】

1. はじめに

字音接頭辞「各」は、「それぞれ(の)」(『新明解国語辞典第七版』)を意味し、「各商品」「各組合」「各カテゴリー」など、多種多様な語と結合することができる。また、語レベルにとどまらず、(1)のように、語レベルを超えるものと結合する例も少なからず存在する。

(1) スクールガードリーダーとしては、警察OBの■■■■さんと■■■■さんが認定されました。すでに各担当の学校を回り、登下校時のパトロールをしてくれています。

(BCCWJ『土佐広報2008年07号』2008)¹⁾

「各」はどのような後接語と結合するのか、「各」を使わなくてもよいときに使っている現象はないのか、すべての「各」の意味用法は同じなのか、などの課題を検討する必要があると考えられる。本稿は、字音接頭辞「各」の後接語の特徴と「各」の意味用法を明らかにすることを目的とする。

2. 考察資料

本稿は、資料として、国立国語研究所で制作された『現代日本語書き言葉均衡コーパス』

(2009 モニター公開版、以下 BCCWJ) を使用した。キーを未指定にし、前方共起をキーから 1 語に設定し、「書字形出現形 が 各 AND 語彙素読み が カク」という指示で検索し、20452 件の検索結果を得た。用例数が膨大なため、出版年を 2005 年と 2008 年に限定することにした。本稿は、「各」の後接語の特徴や、意味用法などの使用実態を明らかにすることを目的とするため、BCCWJ における「出版・新聞」「出版・書籍」「特別目的・知恵袋」をはじめ、すべてのレジスターの用例を収集することが望ましいのではないと思われる。2005 年と 2008 年に限定すれば、BCCWJ のすべてのレジスターの用例を確保することができる。そのため、出版年を 2005 年と 2008 年に限定することにしたのである。その結果、6624 件の用例を得た。用例を一例ずつ確認すると、対象外とするものがある。

例えば、(2) のように、明らかに考察対象にならないものを対象外とする。

- (2) 刻まれているのは、六諭衍義の「孝順父母」「尊敬長上」「教訓子孫」「和睦郷里」「各安生理」「母作非為」の六つの教え。

(BCCWJ『市民のひろば 2008 年 07 号』2008)

また、本稿における字音接辞の定義は野村 (1978) の「接辞性字音語基」と一致し、「すでに存在する、和語・外来語の語基、および、字音複合語基、そして、それらの結合形に、前部分あるいは後部分から結合する、字音形態素」(同:104) のことである。「字音複合語基」というのは、二字以上の漢語のことである。この定義によって、「各商品」「各組合」「各カテゴリー」の「各」は字音接頭辞として認められるが、(3) のように、一字漢語と結合し、二字漢語を構成する「各」は字音接頭辞として認めることができず²⁾、対象外とする。

- (3) 3 歳以上で、集団保育が可能な心身障害児は、次の各園で入園を受け付けています。

(BCCWJ『広報しずおか「静岡気分」2008 年 17 号』2008)

さらに、(4) のように、「各」の後ろに数字が来る場合もある。それも対象外とする。

- (4) 参考書と過去問題集、各 1 冊ずつで何とかなりますよ。

(BCCWJ. Yahoo! 知恵袋. 2005)

この 3 種の対象外とするものは合わせて 1365 件あり、それを除くと、延べ語数 5259、異なり語数 1440 件のデータが得られ、考察対象とする。表でまとめると、表 1 のようになる。

表 1 BCCWJ から収集した用例数

		用例数
考察対象とするもの		5259(異なり語数は 1440)
考察対象としないもの	明らかに考察対象にならないもの	39
	後接語が一字漢語であるもの	165
	後接語が数字であるもの	1161
合計		6624

3. 「各」の後接語について

3.1 「各」はどこまでかかるのか

「各」の後接語について検討する前に、後接語はどこまでと考えるべきかが問題になる。「各」は(5)のような文字数の多い複合名詞と結合することもある、(6)のような語レベルを超えるものと結合することもある。(5)を例にすると、「各」は「公民館」までかかるのか、それとも、「公民館図書室」までかかるのか、そこは問題になる。このように、後接語認定という問題は簡単ではない。

(5) 図書館本館と平方・瓦葺・たちばな・大石・上尾駅前の各分館、上平・原市・大谷の各公民館図書室は、蔵書点検のため2月十一日(祝)から十八日(月)まで臨時休館します。
(BCCWJ『広報あげお2008年02号』2008)

(6) 委員構成 計二十九人・各市町長及び副市町長(4市町×2人)・各市町議長及び議員代表(4市町×2人)・学識経験を有する者(4市町×3人+1人)
(BCCWJ『広報くりはし2008年04号』2008)

(7) 詳しくは、戸籍住民課または各総合支所生活環境課へ問い合わせてください。

(BCCWJ『広報いせ2008年05号』2008)

(8) 平成二十一年からの実施を計画している「ごみの有料化について」の説明会が地域住民や事業所を対象に各公民館及び集会場等で行われています。

(BCCWJ『市民のひろば2008年06号』2008)

(5)と(6)は文脈から判断できる。(5)は蔵書点検の話であり、「各」は「公民館」ではなく、「公民館図書室」までかかることが文脈からわかるだろう。(6)の「各」は、「(4市町×2人)」からわかるように、「及び」の前の「市町長」にかかるのではなく、「及び」という接続詞を超え、後ろの「副市町長」までかかる。

しかし、「各」は複合名詞や語レベルを超えるものと結合するのは必然的でないため、そうでない場合も当然ある。(7)の「各」は、「総合支所」までかかる「各[総合支所]生活環境課」という解釈と、「生活環境課」までかかる「各[総合支所生活環境課]」という解釈の二通りがある。(8)の「各」も、「及び」を超えず「公民館」までかかる解釈と、「及び」を超え、「集会場」までかかる解釈の二通り³⁾があり、より長い前後文脈を確認しても、判断できる材料が見つからない。このような文脈から判断できない場合、「各」は短い言語単位までかかるとの解釈で統一する。よって、(7)は「総合支所」までかかると判断し、「各」の後接語は「総合支所生活安全課」ではなく、「総合支所」である。(8)は「公民館」までかかり、「各」の後接語は「公民館及び集会場」ではなく、「公民館」である。

3.2 後接語の語種について

表 2 は「各」の後接語について語種別にその異なり語数と延べ語数を示したものである。

表 2 「各」の後接語の語種別語数と比率

語種		異なり語数(比率)	延べ語数(比率)
漢語	二字漢語	418(29.03%)	2524(47.99%)
	三字漢語	177(12.29%)	695(13.22%)
	四字漢語	173(12.01%)	421(8.01%)
	五字漢語	64(4.44%)	137(2.61%)
	六字以上の漢語	44(3.06%)	65(1.24%)
	小計	876(60.83%)	3842(73.06%)
和語		46(3.19%)	120(2.28%)
外来語		219(15.21%)	710(13.50%)
混種語		213(14.79%)	441(8.39%)
語レベルを超えるもの		86(5.97%)	146(2.78%)
合計		1440(100%)	5259(100%)

異なり語数も延べ語数も、「漢語>外来語>混種語>和語」という順に語数が多いことがわかる。「各」の後接語が漢語である比率は、異なり語数の 60%、延べ語数の 70% を超え、圧倒的に高い。そのうち、四字以上の漢語の異なり語数は 281、漢語全体の異なり語数 876 の約 32% を占める。四字以上の漢語の延べ語数は 623、漢語全体の延べ語数 3842 の約 16% を占める。ほかの字音接辞と比べ、四字以上の漢語と結合する比率が比較的高いということが特徴である。本稿の「各」のほかに、後接語の文字数を統計する論考は、山下 (1999) の「的」、山下 (2003) の「化」、張 (2014) の「同」、張 (2016a) の「当」、張 (2016b) の「本」がある。四字以上の漢語が漢語全体でどれくらいの比率を占めるのかをまとめると、表 3 のようになる。「各」の後接語が四字以上の漢語である比率はほかの字音接辞と比べ、比率が高いことは明らかである。

表 3 各字音接辞と後接語が四字以上の漢語である比率⁴⁾

接辞	出典	後接語が四字以上の漢語である比率 (異なり語数)	後接語が四字以上の漢語である比率 (延べ語数)
各	本稿	32.08% (281/876)	16.22% (623/3842)
化	山下(2003)	16.29% (80/491)	1.81% (147/8116)
的	山下(1999)	12.71% (126/991)	当該データなし
当	張(2016a)	15.89% (24/151)	4.39% (33/ 752)
同	張(2014)	7.32% (29/396)	2.08% (41/1974)
本	張(2016b)	21.23% (93/438)	6.35% (187/2944)

また、表2からわかるように、「各」の後接語が混種語である比率は、異なり語数では、約14.8%であり、延べ語数では、約8.5%である。これもほかの字音接辞と比べ、高い数値である。混種語は「各場面」「各役柄」などのように、文字数が少ないものがあるが、「各音楽配信サイト」「各高松市立幼稚園」のように、文字数が多いものも多数存在することも事実である。混種語と結合する比率が高いという現象は文字数が多い複合名詞と結合しやすいという結論の証拠になると考えられる。

後接語が混種語と結合する比率を統計する論考は、表3に示した「各」「化」「的」「当」「同」「本」のほかに、山下(1998)の「風」、中川(2010)の「新」、山下(2013)の「系」、中川(2015)の「両」もある。以上の字音接辞の後接語が混種語である比率をまとめると、表4のようになる。「各」の後接語が混種語である比率はほかの字音接辞と比べ、高いことは明らかである。

表4 各字音接辞と後接語が混種語である比率⁵⁾

接辞	出典	後接語が混種語である比率 (異なり語数)	後接語が混種語である比率 (延べ語数)
各	本稿	14.79% (213/1440)	8.39% (441/ 5259)
化	山下(2003)	6.04% (38/ 629)	0.74% (63/ 8534)
系	山下(2013)	4.26% (10/ 235)	当該データなし
新	中川(2010)	5.93% (47/ 793)	1.01% (136/13514)
的	山下(1999)	2.19% (25/1140)	0.25% (55/22190)
当	張(2016a)	10.30% (24/ 233)	4.02% (45/ 1119)
同	張(2014)	3.45% (18/ 521)	1.79% (45/ 2520)
風	山下(1998)	10.03% (33/ 329)	当該データなし
本	張(2016b)	4.44% (24/ 541)	1.08% (35/ 3246)
両	中川(2015)	6.65% (46/ 652)	1.10% (160/14519)

以上に述べた、「各」は四字以上の漢語と結合する比率が高いという現象と、混種語と結合する比率が高いという現象の2つから、「各」は文字数の多い複合名詞と結合しやすいことがいえる。

なお、「語レベルを超えるもの」については、語種判定を行わず、3.4において詳しく検討する。

3.3 後接語の意味分野について

次に、「各」の後接語の意味分野については、『分類語彙表 増補改訂版』(大日本図書、2004)を参考にし、分類を行った⁶⁾。「各」の後接語はすべて「1.体の類」に属する。「1.体の類」の下に、さらに5つの大項目がある。表5からわかるように、「各」の後接語のうち、異なり語数も延べ語数も、半数ほどは「施設」「支所」「委員」のような「1.2人間活動の主体」

を表す語である。

表 5 「各」の後接語の意味分野 (大項目) 語数と比率

大項目	異なり語数(比率)	延べ語数(比率)
1.1 抽象的關係	290(20.14%)	1325(25.19%)
1.2 人間活動の主体	629(43.68%)	2740(52.10%)
1.3 人間活動成員および行為	263(18.26%)	620(11.79%)
1.4 生産物および用具	132(9.17%)	333(6.33%)
1.5 自然物および自然現象	40(2.78%)	95(1.81%)
語レベルを超えるもの	86(5.97%)	146(2.78%)
合計	1440(100%)	5259(100%)

さらに、5つの大項目の下に、細分類され、中項目も設けられている。表 6 からわかるように、「各」は、「1. 体の類」の下に設けた全 43 中項目のうち、「1.12 存在」「1.20 人間」「1.42 衣料」「1.50 自然」の 4 つ以外の、39 中項目を表す語と結合する用例が確認され、各中項目に広く分布していることがわかる。「各」はほぼ制限なく、多種多様な意味を表す語と結合でき、その生産性の高さがここでもうかがえる。

しかしながら、データの偏りも確かに見受けられる。表 5 の大項目でいえば、「1.4 生産物および用具」「1.5 自然物および自然現象」の比率が低いといった数字の偏りがある。また、表 6 からわかるように、「各」は各中項目に広く分布しているといえるが、「出張所」「保育園」「図書館」など、「1.26 社会」を表す語と、「総合支所」「区役所」「行政局」など、「1.27 機関」を表す語に比較的偏り、両者を合わせて、延べ語数の 40%ほどの比率を占める。

それは、書き言葉という資料の性格を反映している面もありそうである。特に、今回は、「特別目的・広報誌」というレジスターの影響が大きい。すでに 2 節で述べたが、本稿で収集した用例は 2005 年と 2008 年の BCCWJ のデータに限定されている。この中でも「特別目的・広報誌」のレジスターにおける用例は全例の約 5 割を占めている。そうなるとう然ながら、「特別目的・広報誌」に頻出する意味分野の語は、全体の比率に大きく影響することは避けられない。

3.4 語レベルを超えるものについて

語レベルを超えるものを異なり語数の 86、延べ語数の 146 抽出した。どのようなものがあるのかを見ていく。

第一に、「各保育所 (園)」「各病 (医) 院」「各学童 (こども) クラブ」のように、後接部分に「()」がついているものが 3 例ある。本稿では、「保育所 (園)」「病 (医) 院」「学童 (こども) クラブ」を「語レベルを超えるもの」とする。

第二に、(9) (10) のように、後接部分が名詞修飾句であるものを「語レベルを超えるもの」

表6 「各」の後接語の意味分野（中項目）の延べ語数と比率⁷⁾

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1.10	抽象的關係	事柄	78	1.48%
1.11		類	181	3.44%
1.13		様相	46	0.87%
1.14		力	5	0.10%
1.15		作用	117	2.22%
1.16		時間	168	3.19%
1.17		空間	614	11.68%
1.18		形	16	0.30%
1.19		量	100	1.90%
1.21	人間活動の主体	家族	27	0.51%
1.22		仲間	1	0.02%
1.23		人物	63	1.20%
1.24		成員	295	5.61%
1.25		公私	295	5.61%
1.26		社会	1105	21.01%
1.27		機関	954	18.14%
1.3	人間活動精神および行為	心	121	2.30%
1.31		言語	203	3.86%
1.32		芸術	14	0.27%
1.33		生活	28	0.53%
1.34		行為	16	0.30%
1.35		交わり	57	1.08%
1.36		待遇	7	0.13%
1.37		経済	49	0.93%
1.38		事業	125	2.38%
1.40	生産物および用具	物品	44	0.84%
1.41		資材	14	0.27%
1.43		食料	9	0.17%
1.44		住居	89	1.69%
1.45		道具	42	0.80%
1.46		機械	47	0.89%
1.47		土地利用	88	1.67%
1.51	自然物および自然現象	物質	44	0.84%
1.52		天地	14	0.27%
1.53		生物	13	0.25%
1.54		植物	2	0.04%
1.55		動物	4	0.08%
1.56		身体	16	0.30%
1.57		生命	2	0.04%
	語レベルを超えるもの		146	2.78%
		(合計)	5259	100%

とする。

(9) 結果は全く各国内で同型に現われているので、両国とも各全体集計のグラフだけを掲げる。(BCCWJ『比較演劇学』2005)

(10) あっ各白いモノの名前に…ついでツッコミは、ナッシングで(笑)
(BCCWJ『Yahoo! ブログ』2008)

(9)は「の」でつながる名詞による名詞修飾句で、(10)は形容詞による名詞修飾句である。このように、「各」は「全体集計の」「白い」といった修飾部を超え、「グラフ」「モノ」といった主名詞までかかることができる。

第三に、(11)～(13)のように、「・」「、」などの符号がついているものも「語レベルを超えるもの」とする。

(11) 十一月十七日(月)～十二月五日(金)に、応募用紙(生涯学習センター、各コミュニティセンター・公民館、市ホームページにあります)を生涯学習課(☎八百三十九・二六三三)へ。(BCCWJ『広報たかまつ2008年22号』2008)

(12) 主に6～8月の夏場、各工場・工房では熟練工による製造の生の様子を見られる。(BCCWJ『るるぶ北欧』2005)

(13) このほか、各常任委員会、特別委員会の委員長、副委員長は、次のとおりです。(BCCWJ『広報くさつ2008年19号』2008)

このように、「各」は「・」「、」などの符号を超え、その符号の後ろの名詞までかかることがある。このパターンは最も多く、延べ146例中、108例はこのパターンである。しかし、(14)(15)からわかるように、「・」「、」の後ろに、また「各」がつくことができる。「各」は「・」「、」などの符号を超え、その符号の後ろの名詞までかかることは必然的ではない。

(14) 企業としてのビジョン、進む方向、社長の意思が各部門・各階層に徹底する。(BCCWJ『品質管理入門』2005)

(15) 市役所、各出張所、各地区公民館などにある申込書に記入し、参加料(直接提出する場合▶現金、郵送の場合▶郵便局の定額小為替)を添えて、下記に提出または郵送。(BCCWJ『市報べっぶ2008年02号』2008)

(15)は(13)と異なり、「、」の後ろの名詞の前にまた「各」が使われ、最初の「各」は「、」を超えず、「出張所」までかかる。(15)の「各出張所、各地区公民館」を「各出張所、地区公民館」に置き換えても、表す意味はほぼ変わらない。この両方が許容され、「各」は「・」「、」を超えるかどうかは任意である。

第四に、(16)～(18)のように、「や」「と」などの並列助詞がついているものを「語レベルを超えるもの」とする。

(16) また、今後は市内の各保育園や幼稚園で実施し、行政・大学とも連携していけたらと考えています。(BCCWJ『市政広報ふくい2008年08号』2008)

- (17) 花壇作りや他の栽培活動、各授業や活動を通して「響き合う仲間」は実践されています。
(BCCWJ『広報いず 2008 年 10 号』2008)
- (18) 該当するかたは、各障害者手帳と印鑑を持って手続きしてください。
(BCCWJ『広報あきた 2008 年 19 号』2008)

このように、「各」は「や」「と」などの並列助詞を超え、その後ろの名詞までかかることがある。このパターンは延べ 146 例中、10 例あり、二つ目の「・」「、」などの符号を超えるパターンより、はるかに少ない。「工場・工房」のように、「・」でつながるものは、まだ構成要素の結びつきが相対的に強く、1 語になっていると考えてよい。それに対し、「授業や活動」のように、「や」でつながる名詞はそれぞれ独立して存在する意識が強く、「授業や活動」全体を 1 語とみる意識がもはやないのではないか。よって、「各」は「や」「と」などの並列助詞を超え、その後ろの名詞までかかる場合がまだ許容範囲であるものの、用例数は少ないのである。また、「各保育園や幼稚園」を「各保育園や各幼稚園」に置き換えても、表す意味がほぼ変わらないため、「各」は「や」「と」などの並列助詞を超えるかどうかも必然的ではないといえる。

最後に、(19) (20) のように、「または」「および」などの接続詞がついているものを「語レベルを超えるもの」とする。

- (19) 申 4 月十五日 (火) までに直接、お住まいの区の保健福祉センター保健福祉サービス課または福祉事務所福祉サービス課へ。問各保健福祉サービス課または福祉サービス課
(BCCWJ『ちば市政だより若葉区版 2008 年 04 号』2008)
- (20) 行事を取材する各言論社及び放送社の担当者方々は下の連絡先で取材申し込んでください
(BCCWJ『Yahoo! ブログ』2008)

このパターンは延べ 146 例中、わずかに 6 例ある。「または」「および」などの接続詞は自立語であり、自立語の「または」「および」でつながる前後の名詞は独立して存在する意識がより一層強い。(19) のような「保険福祉サービス課または福祉サービス課」を言語単位のひとつとまとりとしてみることはまだ許容範囲といえるが、一般的ではなくなっている可能性が高い。

以上のように、「語レベルを超えるもの」をまとめてきた。「各」のほかに、語レベルを超えるものと結合する字音接辞がある。それらにはどのような共通点が見いだされるのかは興味深い課題である。

4. 「各」と重複表現

BCCWJ から膨大な数の用例を得たが、すべての用例は本当に「各」が必要なのか、使わなくてもよいときに、「各」をつけてしまう現象があるのではないかという疑問が生じた。

- (21) 別府市では各小学校「ごと」に、給食集会や特別な献立（世界の料理、昔の料理）などの取組みを行った。（BCCWJ『市報べっぷ 2008年3月』2008）
- (22) 直径わずか8センチという的の中心を狙い、各距離「ごと」に三十六本ずつの矢を放ち総得点を競います。（BCCWJ『広報しずおか「静岡気分」2008年18号』2008）
- (23) 朝の番組で「星占い」をやっていますよね。各番組「によって」同じ星座なのに、最高のランクと最低のランクに分かれる時ってありますよね。（BCCWJ『Yahoo! 知恵袋』2005）
- (24) また、弁護士費用については昨年度までは弁護士会で一応の目安となる算定法が決まっていたのですが、今年度からは自由競争でいいことになったので、各弁護士事務所「によって」異なります。（BCCWJ『Yahoo! 知恵袋』2005）
- (25) 脂肪吸引手術について各部位「別」に、もう少し詳しく説明しましょう。（BCCWJ『金の糸 & フェザーリフト切らない若返り術』2005）
- (26) 各省庁「別」に人材を登用し、登用された官僚の多くが一生その省庁に勤務する日本の官僚機構とは異なり、IAS等の高官職は各省庁から委任されたものになっている。（BCCWJ『巨大市場インドのすべて』2005）

「ごと（に）」「によって」「別」の前の名詞に、「各」がつかなくても、文意はほとんど変わらないだろう。つまり、(21)～(26)における「各」は余剰のものだと考えられる。しかし、(21)～(26) からわかるように、使わなくてもよいときに、「各」がついている。誤用というレベルではないが、重複を感じる。

飯田（2009）では、「同じ意味・内容の語句を重ねて使う言い方を重複表現（重言）といいます」（同：330）と述べ、「一番ベスト」「あとで後悔する」「水道が断水」などの例が挙げられている。飯田（2009）では、「各」について言及されていないが、「各」は「ごと（に）」「によって」「別」などの表現と重複しており、(21)～(26) のような使い方は重複表現に入れてもよいのではないと思われる。

- (27) 彼は、会う人ごとに、こんど建てた家のことを自慢している。（『日本語文型辞典』. p.119）
- (28) 場合によってはこの契約を破棄しなければならないかもしれない。（『日本語文型辞典』. p.457）

『教師と学習者のための日本語文型辞典』（くろしお出版.1998）では、(27) のような「ごとに」は、「それぞれに、おのおのに、というような意味を表す」（p.119）と述べ、「各」が意味する「それぞれ、おのおの、めいめい」と重なる。(28) のような「によって」は、『日本語文型辞典』では、「そのうちのいろいろな場合に応じて」という意味を表す」（p.457）と述べ、「各」が持っている意味と重なる部分があるといえるだろう。また、国語辞典では、「別」は「それぞれの違いによって分ける」（『新明解国語辞典第七版』）と意味記述される。

本来「それぞれ」の意味合いを持っており、「各」が持っている「それぞれ」の意味合いを借りなくて済むと思われる。

以上のように、「ごと（に）」「によって」「別」が持っている「それぞれ、いろいろ」の意味と、「各」が持っている「それぞれ」の意味と重なることがわかる。「各□□ごと（に）／によって／別」などの言い方は、同じ意味の語句を重ねて使う言い方であり、飯田（2009）の「重複表現」の定義に一致し、「重複表現」の一種類といえる。このような重複表現は、全部で145件あり、さほど多い数字ではないが、「各」を使わなくてもよいときに、使っている現象は確かに存在する。

5. 「各」の意味用法

5.1 全体型と個別型

国語辞典では、「各」を「それぞれ（の）」（『新明解国語辞典第七版』）と記述され、それを「各」の基本的意味だと理解するのは間違いないだろう。しかし、文脈によっては、語用論的に意味の差が出てくると考えられる。

- (29) 保育園就園前の子どもを対象に、保育園の生活を体験してもらうための園開放、「にこにこ広場」が村内各保育園で行われています。

(BCCWJ『広報みなみみのわ2008年07号』2008)

- (30) 保育園により利用料金に違いがありますので詳細は、各保育園にお問い合わせください。

(BCCWJ『広報みぶ2008年07号』2008)

- (31) 平成十六年度より浦和区独自で行なっている事業で、「ごみのない美しいまちづくり」に向けて、区内の各自治会にそれぞれの地区において、一斉に清掃活動をしていただいております。

(BCCWJ『市報さいたま（浦和区版）2008年11号』2008)

- (32) 電子レンジは対象外ですので、粗大ゴミ、不燃物、産業廃棄物等、各自治体の処分方法で処分して下さい。

(BCCWJ『Yahoo!知恵袋』2005)

(29) は「にこにこ広場」がもれなくすべての村内の保育園で行われているという意味で、「各」は「もれなくすべての」を意味する。しかし、(31) は、もれなくすべての保育園にお問い合わせくださいという意味で理解する人はおそらく誰もおらず、自分が行きたい、その保育園に問い合わせるという意味で一般的に理解され、「各」は「当該の（ものだけ）」を意味する。

(29) のようなタイプを「全体型」と呼び、(30) のようなタイプを「個別型」と呼んでおく。(31) (32) も同様である。(31) は「清掃活動」がもれなくすべての自治会で行われるという意味で、全体型の「各」である。それに対し、(32) は、すべての自治会の処分方法で処分するという意味ではなく、自分が所属する自治会、その自治会という意味で一般的に

理解され、個別型の「各」である。図で表すと、下の図 1 と図 2 のようになる。

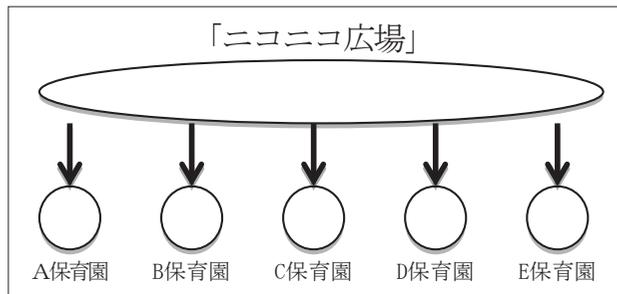


図 1 全体型の「各」

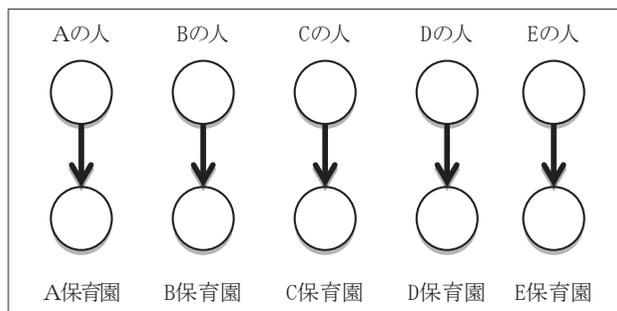


図 2 個別型の「各」

2種の「各」は、図で示したように、矢印の上の形は一つの全体になるのか、個別にあるのかというところで異なる。(29)で説明すると、「ニコニコ広場」という同じイベントが各保育園で行われるという意味で、矢印の上の形は一つの全体になり、「ニコニコ広場」という同じものを表す。それに対し、(30)は、A 保育園に行きたい場合、A の人が A 保育園に問い合わせる、B 保育園に行きたい場合、B の人が B 保育園に問い合わせるという意味で、それぞれの保育園に問い合わせる人は違う人であり、矢印の上の「○」は個別にあり、それぞれ違う人を表す。

矢印の上の形という点以外は、図 1 と図 2 は同じである。「各」は基本的に「それぞれ(の)」の意味を表しているため、図 1 と図 2 は似たような構図になっているのではないかと考えられる。

なお、本稿は、「各」には、「全体型」と「個別型」の 2 タイプがあることの指摘にとどめておきたい。全体型と個別型は必ず分けられるのか、どのような場合に、全体型が使われているのか、どのような場合に、個別型が使われるのか、などの課題は詳細な検討と考察が必要であるため、また稿を改め論じることにはしたい。

ただ、1 点だけ触れておくと、BCCWJ のデータを見る限り、(29) と (31) の個別型の例

文もそうであるが、個別型の「各」は、「各□□に、お問い合わせ／お申し出／お申し込み／ご提出／ご処分／ご相談ください」のように、依頼表現が用いられる傾向が見られ、依頼表現を伴う用例は多く存在する。

(33) 古い保険証は、各行政センターに返却してください。 (作例)

(34) 古い保険証は、各行政センターに返却することができる。 (作例)

(33) と (34) は、「てください」という依頼表現が使われるか否かという点だけで異なる。「てください」が使われる (33) は、「古い保険証を自宅に最も近い行政センター、行くのに最も便利な行政センターに返却する」という意味で理解されるのが普通だろうと思われ、(33) の「各」は個別型の「各」といえる。それに対し、「てください」が使われない (34) は、「古い保険証をすべての行政センターに返却することができる」という意味合いを持ち、(34) の「各」は全体型の「各」といえるのではないかと考えられる。

「てください」のような依頼表現が用いられる「各」はすべて個別型になるのか、その反例はないのか、なぜ依頼表現を伴うと、「各」は個別型になるのか、両者の間にどのような関係を持っているのか、などは現段階ではまだ解明しておらず、併わせて今後の課題にしたい。

5.2 照応表現といえるのか

上述したように、「各」は「それぞれの」という意味を表す。しかし、(35)～(38) のように、何を「それぞれの」と見るかについては、文脈の支えが必要となる用例もある。

(35) (財)自治総合センターから、宝くじの収入をコミュニティ活動の発展に役立ててほしいと、檜山・東・南・将軍野・明德・浜田・旭北地区の各コミュニティセンター運営委員会に、合わせて二百五十万円の助成がありました。

(BCCWJ『広報あきた 2008 年 19 号』2008)

(36) 折り込みを予定している新聞は、読売・朝日・毎日・東京・日本経済・産経・埼玉新聞の各朝刊です。 (BCCWJ『広報あげお 2008 年 01 号』2008)

(37) 午後 1 時から今泉小学校・西小学校・瓦葺中学校各 PTAによる実践報告会を行います。 (BCCWJ『広報あげお 2008 年 02 号』2008)

(38) 区ではこれまで保健福祉の推進に向け、高齢者、障害者、保健医療の各分野の計画を平成十七年 3 月に一元化して策定しました。

(BCCWJ『広報としま 2008 年 33 号』2008)

(35) の「各」はその直前に出てきた「檜山・東・南・将軍野・明德・浜田・旭北地区」の 7 地区のみを指す。このような文脈の支えが必要となる「各」は照応表現の一種として機能していると見ることができるとかを検討したい。

山梨 (1992) では、「一般に、ある言語表現が、これに後続する言語表現と同一の内容な

いしはおなじ対象をさす場合、これらの表現は「照応関係」(anaphoric relation)にあるとされる」(同:2)と述べている。(35)でいえば、「各」は、その直前に出てきた「橋山・東・南・将軍野・明德・浜田・旭北地区」を指示し、同じ内容を指している。山梨(1992)に従い、前方照応表現の一種として機能すると見ることができるのではないかと考えられる。

前方照応表現として機能する場合、(35)~(38)のように、「A、B、C、D、…(の)各X」という形式になる。このような形式は、「各」だけでなく、(39)のように、「両」にも見られる。

(39) 陸上、海上両自衛隊を海外に派遣する。(中川 2015-13)

中川(2015)は、字音形態素「両」について考察したものである。(39)は、「A、B(の)両X」という形式になり、(35)~(38)の「A、B、C、D、…(の)各X」と同じパターンの形式だと考えられる。しかし、中川(2015)では、(39)の「両」は並列表現の「両一」と呼ばれ、照応表現の「両一」は(40)のようなものであると指摘している。

(40) 決議案にロシアと中国が拒否権を行使した。両国は……(中川 2015-20)

本稿は、(39)と(40)の「両」は確かに違うタイプの「両」だと認めるが、中川(2015)のように、並列表現と照応表現の違いとして捉えるのではない。(39)の「両」は、その直前の「陸上、海上」を指示し、照応関係にあると十分に考えられるだろう。(39)と(40)は同様に照応表現だと主張すると、両者の違いを考えなければならない。本稿では、両者は並列表現と照応表現の違いではなく、代行指示と指定指示の違いではないかと主張する。

(41) 昔、ここで1本の芝居が上演された。その作家がのちに大小説家になった。

(日本語記述文法研究会編 2009:31)

(42) 折り込みを予定している新聞は、読売・朝日・毎日・東京・日本経済・産経・埼玉新聞の各朝刊です。 = (36)の再掲

(43) 陸上、海上両自衛隊を海外に派遣する。 = (39)の再掲

日本語記述文法研究会編(2009)によると、「代行指示では指示表現の部分だけが既出の指示対象に対応する」(同:31)と述べ、(41)では、「その作家」の「その」は「芝居の」を指す。(42)の「各」と(43)の「両」は(41)の「その」に似た機能を果たす。(42)の「各朝刊」の「各」は「読売・朝日・毎日・東京・日本経済・産経・埼玉新聞の」を指し、(43)の「両自衛隊」の「両」は「陸上、海上」を指す。(42)の「各」と(43)の「両」は代行指示の一種ではないかと思われる。

(44) 昔、ここには無名の作家が下宿していた。その作家がのちに有名な小説家になった。

(日本語記述文法研究会編 2009:31)

(45) 埼玉県の市は、東武伊勢崎線、上越高崎線、西武池袋線、東武東上線に沿って市が発展しています。その各路線に挟まれた地域と言うのは町が多くなっています。

(BCCWJ『Yahoo!知恵袋』2005)

(46) 決議案にロシアと中国が拒否権を行使した。両国は…… = (40)の再掲
 一方、指定指示では、「この」「その」と名詞が合わさった全体で、既出の指示対象を指示し、(44)では、「その作家」は全体で「(ここに下宿していた)無名の作家」を指す(日本語記述文法研究会編 2009:31)。(45)の「各路線」は全体で「東武伊勢崎線、上越高崎線、西武池袋線、東武東上線」を指し、(46)の「両国」は全体で「ロシアと中国」を指すため、指定指示の一種と認められるだろう⁸⁾。

「各」は「両」と同様に、指定指示と代行指示の2つの用法を持つ。ただし、(45)のような指定指示の用例は少ない。延べ語数5259の用例のうち、144例が照応表現として機能する「各」と考えられる。そのうち、(45)のような指定指示はわずか2例のみである。

また、「各」と似たような字音接頭辞も前方照応表現として機能する用法があり、「各」は前方照応表現として機能するものも変わったことではない。

野村(1978)は、「接辞性字音語基」⁹⁾という概念を主張し、その接辞性字音語基を分類し、機能を全般的に考察するものである。野村(1978)の分類では、「各」は「連体詞型接辞性字音語基」の一例として挙げられ、ほかには(47)に示すものがある。

(47) 連体詞型…同(～議員)・本(～○日)・前(～会長)・現(～総裁)・旧(～陸軍)・
 今(～国会)・来(～シーズン)・故(～○○氏)・副(～総理)・準(～決勝)・全(～
 日本)・総(～選挙)・各(～省庁)・両(～陛下)・諸(～外国) (同:112)

「同(～議員)」「本(～○日)」「現(～総裁)」「両(～陛下)」などについて、表7に挙げた先行研究があり、前方照応表現として機能する用法を持つとの指摘を確認することができる¹⁰⁾。

表7からわかるように、用語はそれぞれ違うが、「各」と同じような連体詞型字音接頭辞は、前方照応表現として機能する用法が確認できる。

また、2節で述べたが、(48)～(50)のように、「各」の後ろに数字が来る場合を対象外とする。しかし、「各」の後ろに数字が来る用例は前方照応表現として機能するといえる。

(48) 参考書と過去問題集、各1冊ずつで何とかなりますよ。 = (4)再掲

(49) いつもオーソドックスなレシピ(薄力粉・バター・粉砂糖各百グラム・タマゴ・バニラオイル)で作ってます。 (BCCWJ『Yahoo!知恵袋』2005)

(50) 課題曲はバッハの平均律から任意の一曲、エチュードはショパン、リスト、ドビュッシーを各一曲、ロシアや現代エチュード群から一曲、全体でもう一曲の五曲、他に自由曲一曲を提出し、……。

(BCCWJ『200CD 国際ピアノ・コンクール鍵盤の覇者たち』2005)

本稿は、「各」はどのような後接語と結合するか、その後接語の語種と意味分野にどのような特徴があるかを明らかにすることは一つの目的である。「各」の後ろに数字が来る場合、語種と意味分野の分析ができないため、本稿ではその用例を除外した。しかし、(51)で示

表 7 連体詞型字音接頭辞と前方照応の関係

先行研究	字音接頭辞	前方照応と関係がない用法	前方照応と関係がある用法
張 (2016c)	「当」 「本」	直示的用法 a. あなたの行いは当病院の品位を著しく傷つけるものです。 b. 北島正樹学長が「授与された白衣を着て本大学への帰属意識を高め、……」と激励。	前方照応的用法 c. 第2期科学技術基本計画においては、……。本基本計画に基づき、……。一層の充実が図られることとなった。 d. ……子育て支援施設を開設し、……。商店街としても当施設の開設を機に、……。フリーマーケットや夏祭りなどのイベントを協働して実施するなど連携を図っている。
張 (2016d)	「同」	連体修飾用法 e. 4月以降は、近くに、現在と同規模の約50アールの畑を新たに借りて、収穫量の増加を目指す。	記号化用法 f. 異動総数は前年度比173人増の5840人で、過去10年で最多。内訳は、退職が同104人増の936人、採用が同31人増の692人。 照応的指定用法 g. 日本バスケットボール協会は9日の理事会で、部員に暴力を振るったとして、……。同協会によると、……
張 (2016e)	「現」	修飾表現 h. このような政府の姿勢は、現政権の弱さに起因しているところが大きいと考えられる。	照応表現 i. 大阪市は、大正3年東京高等商業(現一橋大学)の教授の職にあった関一を大阪市に招き、助役に就任させた。
中川 (2015)	「両」	語レベル j. 彼は、両手にさげていた土産物を床におろした。	文レベル 並列表現 k. 陸上、海上両自衛隊を海外に派遣する。 照応表現 l. 決議案にロシアと中国が拒否権を行使した。両国は……

すように、『新選国語辞典第九版』(小学館, 2011)では、後接部分が数字である「各」も用例として挙げられている。後接部分が数字である「各」は字音接頭辞の「各」と認めてよいのか、どのように位置づければよいのか、今後の課題としたい。

- (51) **造** **接頭** おのおの。めいめい。それぞれ。「各自・各種・各様」「赤・青の鉛筆を――ダース」「――新聞社の記者」 (『新選国語辞典第九版』(小学館, 2011))

6. 「各」と「毎」の比較

最後に、「各」との類似が予想される「毎」を検討する。「各」と同じ方法で、BCCWJを使用し、キーを未指定にし、前方共起をキーから1語に設定し、「書字形出現形 が 毎 AND 語彙素読み が マイ」という指示で検索し、546件の検索結果を得た。一例ずつ検討した結果、字音接頭辞の「毎」と考えてよい用例数は、異なり語数65、延べ語数458

である。延べ語数が多い順に並べると、上位 10 位の後接語は次の通りである。

- (52) 年度 (159)¹¹⁾、事業年度 (81)、シーズン (24)、会計年度 (20)、試合 (20)、時間 (18)、日曜日 (11)、木曜 (11)、決算期 (10)、食後 (10)

延べ語数が 10 以上の後接語はちょうどこの 10 語であり、延べ語数の 8 割弱を占めている。「毎」の延べ語数は少なく、その後接語も一部の語に集中する傾向がある。このことから、「毎」の生産性は「各」と比べてはるかに低いといえる。

「毎」の後接語を意味で分類してみると、「時間」を表す語が全体の 87.8% を占め、圧倒的に多い。つまり、「毎」は時間を表す語と集中的に結合し、どの意味分野の語とも結合できる「各」とは対照的である。時間を表す語が「毎」と結合し、それ以外の意味を表す語が「各」と結合するのは合理的だろうと考えられるが、表 6 からわかるように、「各」は時間を表す語と結合する場合もあり、相補分布をなしていない。時間を表す語と結合する「各」と「毎」の違いを検討したい。

- (53) 六十二年度¹²⁾、毎年度一兆三千五百億円の赤字国債減額が可能ですか。
(BCCWJ『国会会議録第 104 回国会』1986)
- (54) 文庫開設¹³⁾、毎日曜日は、九時前から文庫が開くのを待っている子どもたちで、境内にはぎやかになりました。(BCCWJ『小学校低学年の読書教育』1988)
- (55) 棒グラフの数値は、各年度の対前年度増減率である。
(BCCWJ『地方財政白書平成 17 年版』2005)
- (56) 草木染教室 道端の草花で、オリジナルの風呂敷やひざ掛けを染めませんか。▷とき 十二月 2 日、十六日、来年 1 月十三日の各火曜日 9:30~12:00 [全 3 回]
(BCCWJ『広報くさつ 2008 年 19 号』2008)

「毎年度」「毎日曜日」の「毎」は、「中断することがない」「連続する」「継続性がある」という意味特徴を持つ。それに対し、「各年度」「各火曜日」の「各」は必ずしも「連続する」「継続性がある」とは限らない。(56) の「十二月 2 日、十六日、来年 1 月十三日」は連続の「火曜日」ではないため、連続性がない「各」が使われているのである。もし、「12 月 2 日、9 日、16 日」というように、連続する日であれば、「毎火曜日」も使われることができるだろう。

また、「毎」は基準時にとっての未来の時間を表す。(53) は、「六十二年度」は基準時であり、それ「以降」の毎回の年度という意味である。(54) は、「文庫開設」は基準時であり、それ「以来」の毎回の日曜日という意味である。それに対し、「各」はこのような制限がなく、基準時にとっての未来の時間も、過去の時間も指すことができる。つまり、「これからの毎年度」や「～以降／以来の毎年度」が使えるが、「今までの毎年度」や「～以前の毎年度」という表現、すなわち基準時にとっての過去の時間と結合する場合は不自然になる。それに比べ、基準時後の「～以降の各年度」も基準時前の「～以前の各年度」も自然な表現になる。

7. おわりに

本稿では、BCCWJより、字音接頭辞「各」の合成語として延べ語数5259、異なり語数1440のデータが得られた。

まず、どのような後接語と結合するかを分析した結果、「各」は文字数が多い複合名詞や、語レベルを超えるものとの結合が多いことが特徴である。また、後接語を意味分野で分類すると、各中項目分野に広く分布していることがわかり、「各」の生産性は強い。

次に、「各」を使わなくてもよい用例について検討し、「各□□ごと(に)／によって／別」などの言い方は、同じ意味の語句を重ねて使う言い方であり重複表現の一種類ではないかと述べた。

それから、「各」の基本的意味は「それぞれ(の)」であるが、文脈によっては、語用論的に意味の差が出てくる場合がある。本稿では、それを全体型と個別型と名付け考察した。さらに、照応表現として機能する「各」があることも検討した。

最後に、「各」と「毎」を比較分析した。「毎」はもっぱら時間を表す語と結合し、延べ語数も少ない。各意味分野の語と結合し、多用される「各」とは対照的である。さらに、時間を表す語と結合する「各」と「毎」は連続性があるかどうか、基準時以前の時間を表すかどうかなどの点で異なる。

注

- 1) 「BCCWJ」は後述するように、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の略称である。また、例文の下線、破線などの線は筆者によるもので、以下も同様。なお、参考文献から引用する用例の線は当該文献による。
- 2) 「各園」「各校」のように、一字漢語と結合し、二字漢語を構成する「各」は、字音接頭辞ではなく、秋元(2005)と同様に、「実質的な意味をもつ複合名詞の前要素」(同:244)として認める。
- 3) (8)は、通常「集会場」までかかり、「各公民館、および、各集会場」というように理解されるだろうが、その地域に、「集会場」という名前の場所、「集会場」を固有名詞としての理解が必ずしも成立しないという確証がない。つまり、「集会場」は固有名詞で、その地域1箇所だけである可能性は否定できない。
- 4) ここでいう「後接語が四字以上の漢語である比率」は「四字以上の漢語の数／漢語全体の数」で計算する比率である。
- 5) 中川(2010)(2015)は一字漢語のデータも含む。それ以外の先行研究は一字漢語を除いた結果である。
- 6) 『分類語彙表』に収録されていない語は、筆者自身の判断で分類する。また、後接語の意味分野を分類する際、文脈の要素も考慮に入れるため、『分類語彙表』は参考として使用し、必ずしも一致するとは限らない。
- 7) 複数の意味分野を持っている語が存在するため、同じ語であるものの、2つ以上の意味分野に

分類されるケースがある。よって、異なり語数の統計が困難である。ここでは、延べ語数としてのデータのみ示す。

- 8) (45) の「各路線」は (44) (46) と違いが見られる。(44) の「その作家」はそのままその前に出現した「(ここに下宿していた) 無名の作家」を指す。(46) の「両国」もそのまま「ロシアと中国」を指す。しかし、(45) の「各路線」はそのまま「東武伊勢崎線、上越高崎線、西武池袋線、東武東上線」を指すと、「その東武伊勢崎線、上越高崎線、西武池袋線、東武東上線に挟まれた地域と言うのは町が多くなっています」になるが、実は、そうではない。この文は、「東武伊勢崎線と上越高崎線に挟まれた地域、上越高崎線と東武東上線に挟まれた地域、東武東上線と西武池袋線に挟まれた地域」を言いたいと思われる。指定指示として機能する「各」は典型的な「照応」と少し違う特徴を持ち、「準照応」と呼ぶのが適切かもしれない。
- 9) 野村 (1978) の「接辞性字音語基」は本稿の「字音接辞」とほぼ同じ概念のものであることをすでに 2 節で述べた。
- 10) 照応表現として機能する用法を持たない「連体詞型接辞性字音語基」もある。例えば、「今年度」「今シーズン」の「今」。
- 11) () の中の数字は、出現頻度を表す。

参考文献

[引用文献]

- 秋元美晴 (2005) 「接頭辞 (接頭語)」『新版日本語教育事典』. 大修館書店
- 飯田晴巳 (2009) 「重複表現」『みんなの日本語事典』. 明治書院
- 張明 (2014) 「「指定」を表す接辞性字音形態素について—「当」「本」「同」を中心に—」慶應義塾大学院文学研究科国文学専攻日本語教育学分野. 未公開修士論文
- 張明 (2016a) 「コロケーション情報による連体詞型接辞性字音形態素「当」の考察」『学習院大学国語国文学会誌』59. 学習院大学文学部国語国文学会
- 張明 (2016b) 「コロケーション情報による連体詞型接辞性字音形態素「本」の考察」『学習院大学大学院日本語日本文学』12. 学習院大学
- 張明 (2016c) 「字音接頭辞「当」と「本」について—両者の比較を中心に—」『日本語学会 2016 年度春季大会予稿集』. 日本語学会
- 張明 (2016d) 「新聞記事における字音形態素「同」の運用実態」『学習院大学人文科学論集』25. 学習院大学人文科学研究科
- 張明 (2016e) 「字音接頭辞「現」に関する一考察」『日本語文法学会第 17 回大会発表予稿集』. 日本語文法学会
- 中川秀太 (2010) 「字音形態素「新」の造語機能」『漢語の言語学』. くろしお出版
- 中川秀太 (2015) 「字音形態素「両」の意味・用法について」『日本語文法』15-2. くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編 (2009) 『現代日本語文法 7』. くろしお出版
- 野村雅昭 (1978) 「接辞性字音語基の性格」『国立国語研究所報告 61 電気計算機による国語研究Ⅳ』. 秀英出版
- 山下喜代 (1998) 「字音形態素「～風」について」『青山語文』28. 青山学院大学日本文学会
- 山下喜代 (1999) 「字音接尾辞「的」について」『日本語研究と日本語教育』. 明治書院
- 山下喜代 (2003) 「字音接尾辞「化」について」『紀要』44. 青山学院大学文学部
- 山下喜代 (2013) 「接辞性字音形態素の造語機能」『現代日本漢語の探究』. 東京堂出版

山梨正明 (1992) 『推論と照応』. くろしお出版

【辞書類】

『教師と学習者のための日本語文型辞典』. グループ・ジャマシイ. くろしお出版. 1998

『新選国語辞典第九版』. 金田一京助 他. 小学館. 2011

『新明解国語辞典第七版』. 山田忠雄 他. 三省堂. 2012

『分類語彙表 増補改訂版』. 国立国語研究所. 大日本図書. 2004

ENGLISH SUMMARY
On the Sino-Japanese Morpheme *Kaku*
ZHANG Ming

This study discusses the meaning and usage of the prefix *kaku* and the conditions of the combination between *kaku* and other morphemes, inspired by the data collected from the BCCWJ. Firstly, there are many examples of the combination between *kaku* and a long compound noun or the morphemes which transcends lexiconic units. Moreover, *kaku* can be combined with morphemes that express various meanings. *kaku* is highly productive of making words. Furthermore, I believe that the abovementioned examples do not require *kaku*, but it is still used. This is the act of repeatedly using words that have the same meaning. The basic meaning of *kaku* is *sorezore*-‘each’ but, according to the context, *kaku* has different pragmatic meanings. I classify these into two types: *zentai*-‘whole’ *type* and *kotai*-‘individual’ *type*. I also consider the functions of *kaku* as an anaphoric expression. Finally, I clarify the difference between *kaku* and *mai*.

Key Words: Sino-Japanese morpheme, *Kaku*, Morpheme after the prefix, Meaning of usage, Anaphora